

かすみがうら市広告掲載基準

(趣旨)

第1条 この基準は、かすみがうら市広告掲載要綱（平成19年かすみがうら市訓令第44号）第4条に規定する広告掲載の範囲の詳細として定めるものであり、この基準に基づき掲載の判断を行うものとする。

(広告掲載全般に関する基本的な考え方)

第2条 市の広告媒体に掲載する広告は、社会的に信用度の高い情報でなければならないため、掲載する広告の内容及び表現は、それにふさわしい信用性と信頼性を持てるものでなければならない。

(屋外広告に関する基本的な考え方)

第3条 茨城県屋外広告物条例（昭和49年茨城県条例第10号）第4条の禁止地域等として、「官公署・学校・図書館・公会堂・公民館・博物館・美術館・体育館・病院及び公衆便所の建造物並びにこれらの敷地」とあることから、これらのものは、原則的に対象としない。

(広告媒体ごとの基準)

第4条 この基準に規定するもののほか、広告媒体の性質に応じて、広告内容及びデザイン等に関する個別の基準が必要な場合は、別に基準を作成することができる。

(規制業種又は事業者等)

第5条 次の各号のいずれかに該当する業種又は事業者の広告は掲載しない。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年法律第122号)で、「風俗営業」と規定される業種
- (2) 風俗営業類似の業種
- (3) 消費者金融の業種
- (4) たばこ製造に関わる業種
- (5) ギャンブルに関わる業種
- (6) 規制対象となっていない業種においても、社会問題を起こしている業種や事業者
- (7) 法律の定めのない医療類似行為を行う事業者
- (8) 民事再生法及び会社更生法による再生・更生手続中の事業者
- (9) 各種法令に違反している事業者
例) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく市長の許可を取得せず、違法に廃棄物の処理を行うもの（不用品を買い取る又は無料で引き取るとしている場合において、別途輸送費・作業代などを要求し、実質的に処理料金を徴収するものも該当する）
- (10) 行政機関からの行政指導を受け、改善がなされていない事業者

- (11) 市税等の滞納があるもの
- (12) 債権取立て又は示談引受けなどをうたったもの
- (13) いわゆる総会屋、暴力団及びその関連企業などが広告主となったもの

(掲載基準)

第6条 次の各号に定めるものは、広告媒体に掲載しない。

- (1) 次のいずれかに該当するもの
 - ア 人権侵害、各種差別、名誉毀損のおそれがあるもの
 - イ 法律で禁止されている商品、無認可商品及び粗悪品などの不適切な商品又はサービスを提供するもの
 - ウ 他を誹謗、中傷又は排斥するもの
 - エ 公の選挙又は投票の事前運動に該当するもの
 - オ 宗教団体による布教推進を主目的とするもの
 - カ 非科学的又は迷信に類するもので、利用者を惑わせたり、不安を与えるおそれのあるもの
 - キ 国内世論が大きく分かれているもの
 - ク 市の広告事業の円滑な運営に支障をきたすもの
- (2) 消費者被害の未然防止及び拡大防止の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの
 - ア 誇大な表現(誇大広告)及び根拠のない表示や誤認を招くような表現
例)「世界一」「一番安い」等(掲載に際しては、根拠となる資料を要する。)
 - イ 射幸心を著しくあおる表現
例)「今が・これが最後のチャンス」等
 - ウ 人材募集広告については労働基準法等関係法令を遵守していないもの
 - エ 虚偽の内容を表示するもの
 - オ 法律等で認められていない業種・商法・商品
 - カ 国家資格等に基づかない者が行う療法等
例)整体院、カイロプロティック、エステティック等
 - キ 責任の所在が明確でないもの
 - ク 広告の内容が明確でないもの
 - ケ 国、地方公共団体、その他公共の機関が、広告主又はその商品やサービスなどを推奨、保証、指定等をしているかのような表現のもの
- (3) 青少年保護及び健全育成の観点から適切でないものとして、次のいずれかに該当するもの
 - ア 水着姿及び裸体姿等で広告内容に無関係で必然性のないもの。ただし、出品作品の一例又は広告内容に関連する等、表示する必然性がある場合は、その都度適否を検討するものとする。

- イ 暴力や犯罪を肯定し助長するような表現
- ウ 残酷な描写など、善良な風俗に反するような表現
- エ 暴力又はわいせつ性を連想・想起させるもの
- オ ギャンブル等を肯定するもの
- カ 青少年の人体・精神・教育に有害なもの

(広告表示内容に関する基準)

第 7 条 広告表示内容に関する基準は次に定める事項とする。

1 人材募集広告

- (1) 人材募集に見せかけて、売春等の勧誘や斡旋の疑いのあるものは認めない。
- (2) 人材募集に見せかけて、商品・材料及び機材の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。

2 語学教室等

安易さや授業料・受講料の安価さを強調する表現は使用しない。

例)「1 か月で確実にマスターできる。」等

3 学習塾・予備校等(専門学校を含む。)

- (1) 合格率など実績を載せる場合は、実績年もあわせて表示する。
- (2) 通信教育、講習会、塾又は学校類似の名称を用いたもので、その実態、内容、施設が不明確なものは掲載しない。

4 外国大学の日本校

この大学は、日本の学校教育法に定める大学でない旨を明確に表示すること。

5 資格講座

- (1) 民間の講習業者が「労務管理士」などの名称で資格講座を設け、それがあたかも国家資格であり、各企業は労務管理士を置かなければならないという誤解を招くような表現は使用せず、当該資格が国家資格ではない旨を明確に表示すること。
- (2) 「行政書士講座」などの講座には、その講座だけで国家資格が取れるというような紛らわしい表現は使用せず、当該資格取得には、別に国家試験を受ける必要がある旨を明確に表示すること。
- (3) 資格講座の募集に見せかけて、商品及び材料の売りつけや資金集めを目的としているものは掲載しない。
- (4) 受講費用がすべて公的給付でまかなえるかのように誤認される表示はしない。

6 病院、診療所、助産所

- (1) 医療法(昭和 23 年法律第 205 号) 第 69 条又は第 71 条の規定により広告できる事項以外は、一切広告できない。
- (2) 提供する医療の内容が他の医療機関等と比較して優良である旨を広告してはならない。

- (3) 提供する医療の内容に関して虚偽又は誇大な広告を行ってはならない。
 - (4) 広告する治療方法について、疾病等が完全に治癒される旨等その効果を推測的に述べることはできない。
 - (5) 写真については、病院の全景や当該医療機関が保有している医療設備、機器の写真等、医療に密接に関わるものは広告できない。
 - (6) マークを用いることはできるが、そのマークが示す内容を文字等により併せて表記しなければならない。赤十字のマークや名称は自由に用いることができない。
- 7 施術所（あん摩マッサージ指圧・はり・きゅう・柔道整復）
- (1) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律（昭和22年法律第217号）第7条又は柔道整復師法（昭和45年法律第19号）第24条の規定により広告できる事項以外は一切広告できない。
 - (2) 施術者の技能、施術方法又は経歴に関する事項は広告できない。
 - (3) 法定の施術所以外の医療類似行為を行う施設（整体院、カイロプラクティック、エステティック等）の広告は掲載できないため、業務内容の確認は必ず行う。
- 8 薬局、薬店、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療用具（健康器具、コンタクトレンズ等）
- 広告を掲載する業者が、業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当課で広告内容についての了解を得ること。
- 9 いわゆる健康食品、保健機能食品、特別用途食品
- 広告を掲載する事業者が、業者所在地を所管する地方自治体の薬務担当課及び食品担当課並びに公正取引委員会で広告内容についての了解を得ること。
- 10 介護保険法（平成9年法律第123号）に規定するサービス・その他高齢者福祉サービス等
- (1) サービス全般（老人保健施設を除く。）
 - ア 介護保険の保険給付対象となるサービスとそれ以外のサービスを明確に区別し、誤解を招く表現を用いないこと。
 - イ 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。
 - ウ その他、サービスを利用するに当たって、有利であると誤解を招くような表示はできない。
例)「かすみがうら市事業受託事業者」等
 - (2) 有料老人ホーム
 - (1) に規定するもののほか、
 - ア 厚生労働省「有料老人ホーム設置運営標準指導指針（以下「指標」とい

う。)に規定する事項を遵守し、指針別表「有料老人ホームの類型及び表示事項」の各類型の表示事項はすべて表示すること。

イ 所管都道府県の指導に基づいたものであること。

ウ 公正取引委員会の「有料老人ホーム等に関する不当な表示(平成16年度公正取引委員会告示第3号)」に抵触しないこと。

(3) 有料老人ホーム等の紹介業

ア 広告掲載主体に関する表示は、法人名、代表者名、所在地、連絡先、担当者名等に限る。

イ その他利用に当たって有利であると誤解を招くような表示はできない。

11 墓地等

市長の許可を取得し、許可年月日、許可番号及び経営者名を明記すること。

12 不動産事業

(1) 不動産事業者の広告の場合は、名称、所在地、電話番号、認可免許証番号等を明記する。

(2) 不動産売買や賃貸の広告の場合は、取引様態、物件所在地、面積、建築月日、価格、賃料、取引条件の有効期限を明記する。

(3) 「不動産の表示に関する公正競争規約(平成17年公正取引委員会告示第23号)」による表示規制に従う。

(4) 契約を急がせる表示は掲載しない。

例) 早い者勝ち、残り戸数あとわずか等

13 弁護士・税理士・公認会計士等

掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業案内等に限定する。

14 旅行業

(1) 登録番号、所在地、補償の内容を明記する。

(2) 不当表示に注意する。

例) 白夜でない時期の「白夜旅行」、行程にない場所の「写真」の掲載等

15 通信販売業

返品等に関する規定が明確に表示されていること。

16 雑誌・週刊誌等

(1) 適正な品位を保った広告であること。

(2) 見出しや写真の性的表現などは、青少年保護等の点で適正なものであること及び不快感を与えないものであること。

(3) 性犯罪を誘発・助長するような表現(文言、写真)がないものであること。

(4) 犯罪被害者(特に性犯罪や殺人事件の被害者)の人権・プライバシーを不当に侵害するような表現がないものであること。

(5) タレントなど有名人の個人的行動に関しても、プライバシーを尊重し節度を

持った配慮のある表現であること。

(6) 犯罪事実の報道の見出しについて、残虐な言葉やセンセーショナルな言い回しを避け、不快の念を与えないものであること。

(7) 未成年、心神喪失者などの犯罪に関連した広告では、氏名及び写真は原則として表示しない。

(8) 公の秩序や善良な風俗に反する表現のないものであること。

17 映画・興業等

(1) 暴力、とばく、麻薬及び売春などの行為を容認するような内容のものは、掲載しない。

(2) 性に関する表現で、扇情的、露骨及びわいせつなものは掲載しない。

(3) いたずらに好奇心に訴えるものは掲載しない。

(4) 内容を極端にゆがめたり、一部分のみを誇張した表現等は使用しない。

(5) ショッキングなデザインは使用しない。

(6) その他青少年に悪影響を与えるおそれのあるものは掲載しない。

(7) 年齢制限等、一部規制を受けるものはその内容を表示する。

18 古物商・リサイクルショップ等

(1) 営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。

(2) 一般廃棄物処理業に係る市長の許可を取得していない場合は、廃棄物を処理できる旨の表示はできない。

例) 回収、引取り、処理、処分、撤去、廃棄など

19 結婚相談所・交際紹介業

(1) 結婚情報サービス協議会に加盟していること(加盟証明が必要)を明記する。

(2) 掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業案内等に限定する。

20 調査会社・探偵事務所等

掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業案内等に限定する。

21 労働組合等一定の社会的立場と主張を持った組織

(1) 掲載内容は、名称、所在地及び一般的な事業案内等に限定する。

(2) 出版物の広告は、主張の展開及び他の団体に対して言及(批判、中傷等)するものは掲載しない。

22 募金等

(1) 厚生労働大臣又は都道府県知事の許可を受けていること。

(2) 下記の主旨を明確に表示すること。

例)「 募金は、 知事の許可を受けた募金活動です。」等

23 質屋・チケット等再販売業

(1) 個々の相場、金額等の表示はしない。

例)「 のバッグ 50,000 円」、「航空券 東京～福岡 15,000 円」等
(2) 有利さを誤認させるような表示はしない。

24 トランクルーム及び貸し収納業者

(1) トランクルームは国土交通省の規制に基づく適正業者(マル適マーク付き)であること。

(2) 貸し収納業者は会社名以外にトランクルームの名称は使用しない。また、下記の主旨を明確に表示すること。

例)「当社の は、倉庫業法に基づくトランクルームではありません。」等

25 ダイヤルサービス

“ダイヤルQ2”のほか各種のダイヤルサービスは内容を確認のうえ判断する。

26 ウィークリーマンション等

営業形態に応じて、必要な法令等に基づく許可等を受けていること。

27 規制業種の企業による規制業種以外の広告

本基準第5条で定める規制業種に該当する企業による規制業種以外の広告は、本基準に定められた規制範囲内でその掲載を認める。

28 その他、表示について注意を要すること

(1) 割引価格の表示

割引価格を表示する場合、対象となる元の価格の根拠を明示すること。

例)「メーカー希望小売価格の30%引き」等

(2) 比較広告(根拠となる資料が必要。)

主張する内容が客観的に実証されていること。

(3) 無料で参加・体験できるもの

費用がかかる場合は、その旨明示すること。

例)「昼食代は実費負担」、「入会金は別途かかります。」等

(4) 責任の所在、内容及び目的が不明確な広告

広告主の法人格を明示し、法人名を明記する。また、広告主の所在地、連絡先の両方を明示する。連絡先については固定電話とし、携帯電話、PHSのみは認めない。

また、法人格を有しない団体の場合は、責任の所在を明らかにするために、代表者名を明記する。

(5) 肖像権・著作権

無断使用がないか確認をする。

(6) 宝石の販売

虚偽の表現に注意(公正取引委員会に確認の必要あり。)

例)「メーカー希望価格の50%引き」(宝石には通常、メーカー希望価格はない。)等

(7) 個人事業者による営業広告等

個人の意見広告や宣伝に関するものは掲載しない。個人事業者の場合は、内容を確認のうえ判断する。

(8) アルコール飲料

ア 未成年者の飲酒禁止の文言を明確に表示すること。

例)「お酒は20歳を過ぎてから」等

イ 飲酒を誘発するような表現の禁止

例)「お酒を飲んでいるまたは飲もうとしている姿」等

(9) WEBページを利用したもの

WEBページへの広告に関しては、WEBページに掲載する広告だけでなく、当該広告がリンクしているWEBページの内容についてもこの基準を適用する。他のWEBページを集合し、情報提供することを主たる目的とするWEBページで、かすみがうら市広告掲載要綱及びこの基準、その他市の定める広告に関する規定に反する内容を取り扱うWEBページを閲覧者に斡旋又は紹介しているWEBページの広告は掲載しない。